

会 議 録

会 議 の 名 称	令和8年度第2回所沢市産業振興ビジョン推進会議
開 催 日 時	令和8年8月19日（水） 13:30～15:30
開 催 場 所	所沢市役所 604会議室
出 席 者 の 氏 名	（会議に参加した委員） 河藤 佳彦、三上 誠、半田 若菜、後藤 功児、鈴木 慎哉、深井 隆正、堺 奈都、朝倉 はるみ、観山 恵理子、宮嶋 和義
欠 席 者 の 氏 名	木村 良孝
説明者の職・氏名	なし
議 題	（1）所沢市産業振興ビジョンにおける令和7年度実績について （2）各重点推進事業における令和8年度の実施内容について （3）令和7年度所沢市地域経済動向調査の概要について （4）第2次所沢市産業振興ビジョンの策定業務について （5）その他
会 議 資 料	・ 次第 ・ 席次表 ・ 委員名簿 ・ 資料1 : 所沢市産業振興ビジョン進捗状況確認シート（令和8年3月末時点） ・ 資料1別紙：所沢市産業振興ビジョン進捗状況確認シート（その他事業） ・ 資料2 : 各重点推進事業における令和8年度の実施内容 ・ 資料3 : 令和7年度 所沢市地域経済動向調査 結果概要 ・ 資料4 : 委託事業者選定報告書
担 当 部 課 名	産業経済部 部長 小池 純一 産業経済部 産業振興課 課長 石川 純也 主幹 町田 昌紀 副主幹 安齊 克徳 主任 濱仲 拓巳 産業経済部 商業観光課 課長 松本 圭四郎 主幹 村田 貴紀 産業経済部 農業振興課 課長 前田 亘一 事務局 産業経済部 産業振興課 電話 04-2998-9157

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
産業振興課長	開会
各委員	前回欠席委員より自己紹介
会長	あいさつ
事務局	これからの進行については、本推進会議条例第 5 条の規定により、会長に議長をお願いする。
会長	議事を進める。本日、傍聴希望者はいるか。
事務局	傍聴者はいない。
会長	それでは、議事を進める。
会長	議事（１）所沢市産業振興ビジョンにおける令和 7 年度実績について 議事（２）各重点推進事業における令和 8 年度取組内容について 議事（１）及び議事（２）については、関連性もあるため連続して事務局より説明を求めることとし、質疑は説明の後合わせて行うことよいか。
各委員	了承
事務局	資料 1 及び資料 2 に基づき説明
会長	質疑、意見はあるか。
委員	資料 1 の重点推進事業 9 について。広域連携することはすごく良い。一つの自治体だけで PR しても消費者になかなか届かない。西武鉄道と連携してやっているというのはとても良い。 ただ、東京の東の方だと「所沢ってどこ？」となると思う。鉄道会社のネットワークも上手く使って PR にチャレンジしていただければ効果があると思う。 重点推進事業 1 2 について。ツアーの企画運営と現地ガイドとは全く仕事が違う。ガイドは受け入れる力。受け入れるガイドの養成について、今いるガイドの意見を聞いてもいいかもしれない。 資料 2 と関連するが、台湾の旅行関係イベントに出展することについて。台湾にターゲット絞るのは良い。ただ、大きな観光資源を持っている西武線沿線の自治体も巻き込んでいいのではないかと。鉄道会社も定期外の客が欲しいと思う。西武線は路線が短いので、他の鉄道会社と違ってやるのが限られると思う。その点も踏まえ、地元の自治体と組むことによって短い路線であってもあちこち楽しめるように PR できる。
会長	重点推進事業 1 について。所沢はロケーションが良いから立地が進む

	ものかと思っていたが、目標には達していない。なぜか。
産業振興課	三ヶ島工業団地が造成中で、そのことをPRしているが、造成が進むスケジュールと会社の立地が進むスケジュールが噛み合わない。広告を出してすぐに飛びついてくれるというものではないため、地道にPRはしているが即効性についてはあまりない。
会長	こちらからアプローチをしていくことがとても大事。
産業振興課	昨年度、工業系の事業者約500者にダイレクトメールを送付した。今年度も必要があればアプローチを考えている。
会長	ダイレクトメールを出した相手方で、少しでもよい感触があった場合は、個別のアプローチなど、積極的な方策をとった方がよいのではないかな。 重点推進事業12について。サクラタウンとの連携は。
商業観光課	サクラタウンとは定期的な意見交換の場が設けられている。連携事業の計画はその場で行われている。
委員	サクラタウンが出ている番組やCM(JRの車内動画CM含め)が多くあるが、その効果は。
商業観光課	把握はできていないが、意見交換の場の中で確認をする。
委員	企業誘致について。会社にとって一大イベント。補助金・助成金は助かるが、それがあるから移転する、というのは少ない。立地が良いとか、メリットを感じる場所だから、とか目先の金額だけでないところが理由になる。その周知・広報が重要になると思う。 農業も、今あるものを活用していけたらいいのではと思う。所沢醤油焼きそばのルールは、所沢産の麺と醤油と野菜を使うこと、としている。野菜の種類は絞っていないので、例えば洋風にすればズッキーニや、パクチーなど。そういうことをして色々なことを知ってもらえるきっかけになればいいと思っている。PR方法の視点を変えて魅力的に感じるようなようにすれば。 鉄道の連携もいい。西武鉄道の拠点があるというのは本当にすごく良いメリットだと思う。ただ、例えば沖縄に旅行に行く、となった際に那覇市の国際通りなどを楽しむと思うが、多分1日は美ら海水族館に行くと思う。あそこは那覇市ではないが「沖縄旅行に行きました」と一括りだと思う。場合によっては石垣島や宮古島に行ったり、色々なところを転々として一つの旅行が成立する。所沢、埼玉はそういった横の繋がりの意識が少ないと感じる。色々なところを巻き込んで発信していくのが大事だと思う。
委員	企業誘致について。和光市にインキュベーションオフィスがあるが、12月で全員退去しなければいけない。このように、大きい企業だけでなく、小さい企業もある。中小企業の方が数も多いので、そういうところも踏まえてほしい。

産業振興課	また、PRについて週刊エコノミストと毎日新聞中部本社版を選ばれた理由は。 予算の中で掲載できる雑誌がエコノミストであった。経営層が購読している。 また、新三ヶ島工業団地が圏央道に近いことから、それらを利用するであろう地域に向けて広告を掲載した。
委員	工業用地のイメージがあるので、日刊工業新聞とかもいいのでは。
会長	新規創業も大事だが、所沢に定着するかどうか考えないといけない。 所沢には大学もあるので、そういったところと連携していくこともひとつ。
委員	商工会議所では、産業振興ビジョンの重点施策のうち、いくつか関わらせていただいている。計画倒れにならず現場の人たちが実現に向けてやっていると思っているので、これから一緒にやっていければと思う。 千葉の方で都市災害があったが、重点推進事業6について予算0である。現状、国の施策等のトレンドで言うと、都市型災害について中小企業の強靱化を図ろうという流れがある。埼玉県ではBCPサポーターというものもやっている。国も県も力を入れているので、少し予算を割いて、市内の事業者に進めてもらわないと政策のトレンドから遅れてしまう可能性がある。こういったところも含めて次の産業振興ビジョンに加えていただければと思う。
会長	BCPは本当に大事である。ゼロ予算は市の認識として課題があると思う。事務局はしっかりと勉強していただき、財政当局や企画当局にしっかりと説明をしていただきたいと思う。
委員	観光地にもBCPが必要。観光地も土産屋等の中小企業が多く、本来は個々でBCPを作るべきだが、そこまでできないところが多い。観光地単位でのBCPを作成し方が良いと提案したことがある。 まずは何が起ころうとも明日から商売ができるように準備をしておく。行政も何かあった時にその支援ができるようなBCPを持っておかないといけない。 大きな予算でなくてなくてもいいと思うので、まずは意識啓発から始めて、簡単なBCPを作るところまでは行政にも支援をしていただくことが必要。
会長	議事（３）令和７年度所沢市地域経済動向調査の概要について 議事（３）について事務局より説明をお願いします。
事務局	資料３に基づき説明。
会長	質疑、意見はあるか。

委員	内容を把握するのが精いっぱいだった。スマート農業やドローンを使うことに対して資金がなくて、という回答があった。今後農業者が高齢になっていくことを考えてそういったことを推進していきたいのか。
農業振興課	スマート化して人が削減できたり、時間が生まれて他の事業ができるようになったといったことに繋がらないといけない。単に機械を入れて楽になりました、だけだと事業の改善に繋がらない。次に何ができるか、がないといけないとは思っている。
委員	スマート農業に関して、費用対効果が見込めないという意見が多いが、その通りだと思う。兼業農家で他に所得がある場合は積極的にやってみようという傾向があるが、農業所得一本でやっているところはそこまで関心が無いというのが実態。 今、農家が一番抱えている問題は、生産資材、肥料、農薬等が想像以上に高騰している。また、農業機械も非常に大事だが、各メーカーびっくりするくらい値上がりしている。機械の更新のタイミングで買いたいものも買えないというところが農家で今一番問題になっている。 代替わりしないで辞めていってしまう農家がこれから先１０年、もっと顕在化してくると思う。こういったところに補助金をつけるというニーズは非常にあるので、少し予算的に多くしていかないと農家の数は減ってしまうと思う。
会長	生産設備の共同利用はできないか。
委員	農業機械をリースするとか、生産の現場の機械を共同で購入するのは難しい。使う時期が一緒だから共同利用は難しい。
委員	報告書の２４ページ。商工会議所の経営相談窓口の認知度・利用率について、力不足を実感している。もっと利用してもらえようＰＲしたい。 回答率について、不達・廃業が１８７者と、配付した１７００者の１０パーセント以上ある点が気になった。事業承継も調査項目に入れたり、次の産業振興ビジョンにこういったデータも活かしながら見直しについて議論させていただければと思う。
委員	賃上げやスマート農業について、回答結果が日本全体の問題なのか、地域性の問題なのか分かりにくかった。 また、IT化するにしてもシステム入れるのにお金かかる。広報でＣＭを打つにも大企業だろうが中小企業だろうが同じ値段がかかるので、やはりできることが変わってしまうことがすごく問題かと思う。 たとえば、システムを一括でライセンス契約のような方法で契約し、ここで農業をやればこのシステムを使って管理ができます、としてみてもいいのではと思いつきではあるが意見を述べさせていただいた。
委員	報告書の１４ページ。人手不足の要因が、採用できないとか離職者が多いということになっており、深刻な問題だと思う。人が居なくて倒産してしまうような会社も結構増えてきている状況だと思う。 その中で、県では多様な働き方実践企業認定制度というものがある。

	認定している企業に毎年アンケートをしているが、人材が確保しやすくなったとか、女性が定着するようになったという回答がだんだん増えている。今更だが、この制度の有用性を感じている。企業としても人を受け入れる環境整備をどんどん進めていかないといけない。
委員	資材費や燃料費の高騰が農家の経営を圧迫している。従来の農業の補助金は設備や機械中心だが、こうした変動費に対する補助はないか。
農業振興課	市単独でやっている事業として、防虫ネットや堆肥に関する補助は今年から始めている。昨年は国の物価高騰対策の補助金があり、そちらの方で燃料費等のかかった経費に対して３０％補助する事業をした。今年も同じような形式でやれるよう９月議会で承認を得る予定。
委員	不耕作地を持っている農家の割合が多かった。今後担い手が減っていく中で条件の悪い農地や不耕作地が増えていく見込みだと思うが、それに対する対応策は。
農業振興課	正攻法は農地中間管理機構を通じた農地の貸し借り。他にも、まだ構想段階だが、草が繁殖していて農業者の間で非常に迷惑とされている隣の土地の草を刈ることに対して市で補助を出すことで、その土地を借りて耕作地を広げるといったきっかけにしたい。そういった制度を来年から始められればと思っている。
委員	担い手の減少と関連するが、最近は所沢市でも従来の家族経営だけでなく、法人や加工業者等の一般企業の農業参入も増えてきている。そういう人たちに話を聞くと、新規参入の際の農地のあっせんや各種補助金が家族経営を前提に設計されていて利用しづらいという意見があった。法人や一般企業等がどのような位置付けにあるのか。
農業振興課	補助の対象を家族経営に限定しているわけではなく、法人にも積極的に入っていただけるような制度設計を目指している。１人、２人でも場合によっては法人として参入する方もいる。できるだけ色々な方に参入していただけるよう対応している。
委員	直売所や庭先販売が販売先の主力となっているが、消費者から見るとどこにいけば直接買えるのかわからない。地産地消マップといった情報発信をパンフレットやホームページでしていけば購入しやすくなるのではないかと思った。
農業振興課	地産地消マップは紙のものは作っていたが、今年アプリ導入を予定していて現在データ入力中。１０、１１月頃にアプリを発表したいと思っている。使っていただかないと役に立たないので一生懸命ＰＲしていきたい。
委員	報告書の５４ページ。人手不足がトップかと思ったらそうではなかったのに驚いた。 次の計画を作る際は自然災害の激甚化を頭に入れないといけない。農業はもちろん、観光も影響を受ける。暑くなりすぎると人は外に出ない

	ので、観光地では人が減っている。それでも所沢市が観光地としてありたいと思うのであれば、やはり人に来てもらわないと困るので、この点をしっかり次の計画に入れ込むことが重要だと思う。 地産地消について、所沢に道の駅がないと思う。似たような場所でＹＯＴーＴＯＫＯがあり、すごく綺麗な展示で、農産物だけでなく他の物も飾られている。だが、観光地の道の駅は観光客ではなく地元の人が買いに行っているところが人気になっている。もちろん農家の店先で買うものが一番新鮮でいいと思うが、あそこに行けば市内のものが手に入る、という場所に生まれ変わらせるチャンスでもあるかと思う。「ＹＯＴーＴＯＫＯ」という施設名だとどんなところなのかイメージしにくいので、そういうところも変えていただいても良いかと思う。まずは地元の人が集まれば、何で地元の人が行っているんだ、と観光客も集まる。サクラタウンもあるし、大きな駐車場もある。農業との連携の拠点としても良いのではと思った。
委員	報告書の４９ページ。スマート農業への取組で取り組んでいるとの回答が７％だったが、資料１の重点推進事業７で補助した人たちなのか。突合はしているか。
農業振興課	突合はしていないが、いわゆるスマート農業と言われるようなものを導入されている方はあまり聞かないので、大部分を占めているのではないかと考えている。
委員	重点推進事業５について、企業５社を選定して４社訪問した結果、皆様が何を知りたくて、どういうことを企業と話して、どういった意見交換がされたのかを今後機会があれば教えてほしい。今後の政策の話をするのに参考になると思う。
副会長	土地の販売価格が上がっている。中小企業が入りたくても入れない。三ヶ島工業団地を作る時に金利補助があった。中小企業に対しての補助があった。それだけでも非常にありがたい。 県にも言っているが、黙ってても企業が入ってくるわけではない。所沢が１００億の投資をして企業を呼ぶ、これがもしかしたら１０００億の生産高になるかもしれない。是非県も支援していただきたい。 早稲田と三ヶ島工業団地が提携を結ぶ寸前まで来ている。インキュベーションセンターを作る予定で話を進めている。商工会議所としても旧市役所跡地をいかに活用できるか提案をしている。三ヶ島工業団地は大きい機械を使い研究開発を行うところで、旧市役所はそのような大きなものはできないのでＡＩを使った事業ができる企業を集めたい。 埼玉県には観光にも力を貸してほしい。
会長	大学との連携ができると大きく変わってくると思う。是非力を入れていただきたい。 プロモーションの仕方も真剣にやっていかないといけない。企業誘致は営業活動として捉えて取り組まなければ、成果は得られない。情報発信するだけでは不十分だと思う。

会長	議事（４）第２次所沢市産業振興ビジョンの策定業務について 議事（４）について事務局より説明をお願いする。
事務局	資料４に基づき説明
会長	質疑、意見はあるか。
会長	これからビジョンの議論をする中で、ときによっては新ビジョン策定に係る議事にウエイトを置いていく検討をしていかないと時間が足りない。 また、新しいビジョンにおいては、顔がしっかり見えるようなキャッチフレーズにすることが必要だと思う。また、戦略的な計画、いわゆる絵に描いた餅ではない実行計画にできれば、と考えている。 今回のコンサルタント委託事業者の決定を市から知らせていただいたので、業務内容について少し確認したところ、計画を実践的に進めていくためのＰＤＣＡの回し方の手法について経験・実績を持っておられるようなので、どのような可能性があるのか、この会議の場でぜひ議論したい。 科学的・実証的なデータに基づいた行政計画が重要だとよく言われる。その手法も複数あるので、そのようなことについて議論したい。また、他の自治体で上手くいっているのかどうかも知りたい。それは手法として上手くいっているのかと同時に、行政として受け入れできるのか、両方が噛み合わないといけない。そういったところも推進会議で直接議論したい。
会長	議事（５）「その他」 議事（５）「その他」として事務局より連絡事項はあるか。
事務局	第３回の会議については、令和８年１０月１５日、木曜日、午前９時３０分から市役所６０４会議室で開催を予定している。
会長	議事は以上となる。進行を事務局に返す。
事務局	閉会

以上